



令和8年6月30日(火)  
静岡大学教育学部  
附属静岡小学校  
5年 学年便り 7月号

## それぞれの立場から考え行動していく姿

運動会を終え、クラスで一つのものへと向かっていったはばたきの子どもは、それぞれの立場で新たな活動へと向かっています。「グループ活動・本キャンプ」に向かう子の中に「忘れ物があって毎回グル長が(持ち物のリストを)書いてくれるから(忘れ物を)やめてほしい」という思いを振り返りカードに書いている子がいました。その子は第2回「結団式」でグル長の思いをしっかり受け止め、グループに対する意識を高めている姿が見られました。その姿から、グループ全体へとグル長の思いが広がってほしい、広げていきたいという思いをもっているのだと感じました。また、フォトオリエンテーリング担当の子は第4回「係別会議」で、雨で中止になってしまった際の活動を考えてました。「どういふ案ならみんなが楽しめるかな?」「この後グループに戻った時にどう伝えたらいいか不安……」「大事なところをしっかりとまとめておこう」などを語っていました。自分の役割に責任感をもって臨んでいるからこそ、思考を巡らせる姿や不安を同じ係の仲間に伝える姿、やる気に満ちた姿など、様々な姿が表れたのだと思います。

こうした思い溢れる姿はフォトオリエンテーリング係だけではなく、一人ひとりの子が自分の役割や立場と向き合い、自分にできることを考え行動していこうとしている様子が振り返りカードや日々の生活の中からも感じられます。ある子は第3回「駿府城オリエンテーリング」があった日の日記にこんなことを書いていました。

「時間内にもどれたけれど時間ギリギリでした。なので本キャンプではチェックポイントにまわるのを協力して時間にもよゆうをもちたいです。そのことをお母さんと話しているときに『グループの中でどんな人だと思われたいか』という話になりました。(中略)私は初めてのキャンプの4年生にたよられる人になりたいです。そのために、明るく声をかけて話したりすることが大切だと思います。(後略)」

グループの活動を振り返ることを通して、自分自身の目指したい姿に立ち返っていることにとっても感心しました。そして、自分にできることは何なのか、具体的な行動を考えていることから、このグル活・本キャンプを自分事として捉えて向き合っていく姿はととても頼もしいです。

グル活も残すところ2回となりました。この4～6年生という異学年集団とともにグル活・本キャンプを乗り越えていく中で、普段の学級・学年では学べないことをたくさん吸収し、自分たちの「羽根」をさらに大きく強くして行ってほしいです。

